

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年3月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171000252
法人名	有限会社 ももえん
事業所名	グループホーム ももえん
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字犬井道915番地1 (電話) 0952-45-1915

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年2月6日	評価確定日	平成 20年3月15日

## 【情報提供票より】(平成19年12月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

### (4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.8 歳	最低 67 歳	最高 89 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人ゲズンハイドひげドクターのお元気でクリニック 下平歯科久保田診療所
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐賀市川副町の田畑が広がる静かな場所に位置したグループホームである。認知症の方であっても、「笑顔でその人らしくいきいきと 持つてる力をフル活用し自由に自ら生きて行く」という理念のもとにケアを実践し、職員も問題や迷いが生じた場合には、必ず理念に立ち帰るという徹底した取り組みがされている。入居者ごとに、写真入りで作成された日々の様子を伝える便りは、家族にも大変喜ばれている。グループホームにある畑には、季節毎の色々な野菜が作られており、その野菜を入居者と一緒に収穫し、調理することで、食事が楽しいものとなっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は、月2回の会議等で報告し話し合いを行う等、改善に向けた取り組みがされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組み、サービスの質の向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	年3回程度の開催で、グループホームのサービス状況や行事、意見・要望等について話し合いを行っている。今後は、地域の協力を得るために、地域住民の代表として民生委員や区長、消防団員等に積極的に参加を依頼することで、地域に開かれたグループホームの運営が期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置し、意見や苦情等を表せる機会づくりはされているが、意見や苦情等を待つのではなく、家族に積極的に聴いたり、家族会を設け、家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作る等して、運営に反映させて行く取り組みが期待される。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	堀掃除、入居者も一緒に行う草とり、文化祭等の地域の行事に参加している。また、地区のゲートボール大会に入居者が参加したり、夏休みのラジオ体操の会場としてグループホームの広場を提供し一緒に行う等、地域との交流がある。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の住民であることを前提に、認知症の方であっても、笑顔でその人らしく、持つてる力を活用して、自由に自ら生きていくための支援を目指した独自の理念が築かれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務所内に理念を掲示し、職員全員が理念に対する意識を高め、ケアを実践していく中で、困ったり、悩んだりした時に、常に、理念に立ちかえるという取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	堀の掃除、入居者も一緒に行う草とり、文化祭等の地域の行事に参加している。また、地区のゲートボール大会に入居者が参加したり、夏休みのラジオ体操の会場としてグループホームの広場を提供し、一緒に行うなど地域との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は、月2回行われる会議等で報告し、話し合いを行う等、改善に向けた取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3回程度の開催で、グループホームのサービス状況や行事、意見要望等について話し合いを行っている。	○	地域の協力を得るために、地域住民の代表として民生委員や区長、消防団員等に積極的に参加を依頼することで、地域に開かれたグループホームの運営が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困ったことや分からない事があるときは、市町村担当者に相談し、協力を得て、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、入居者ごとに写真入りで個別の便りを作成し、日頃の様子を家族に知らせている。また、必要があるときは、その都度、電話等で報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見や苦情等を表せる機会づくりはされている。	○	意見や苦情等を待つのではなく、家族に積極的に聴いたり、家族会を設け、家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作る等して、運営に反映させて行く取り組みが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が最小限に抑えられるように努めている。やむを得ず離職者がいる場合は、新しい職員との引き継ぎのための時間を十分に取、入居者へのダメージを防ぐ配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回行われる会議を利用し、入居者に関する病気や薬をテーマとした勉強会が行われている。外部研修の参加費用を法人負担とし、参加しやすい体制がつけられている。また、グループホーム協会主催の事例研究発表への取り組みもされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの相互研修を行ったり、行政主導のネットワークで、他の関係機関との交流をもつことにより、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	スタッフが出向いたり、遊びにきてもらったりすることを繰り返し、また、共用型の通所介護を利用してからの入居等、馴染みながら利用に移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として尊敬しながら、作業等を一緒にしたりすることで、共に支えあう関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が、その人らしい生活が送れるように本人や家族の意向の把握に努めている。意思疎通が困難な入居者の場合には、日々のかかわりの中で、言葉や表情などから本人の意向を汲み取る工夫がみられる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が、その人らしい生活が送れるように本人や家族の意向を聴き、かかりつけ医からの意見を含めて職員で話し合い、介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の定期見直しを行うとともに、状況の変化が生じた場合には、その都度職員で話し合い、本人の現状に即した見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、訪問診療を受けたり、24時間体制で緊急時に対応できる等、協力医療機関と関係を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化や終末期に向けた指針を説明し、本人や家族の意向を確認している。また、状態の変化があるごとに、かかりつけ医等と十分な話し合いを繰り返し、納得のいく方法で終末期を迎えられるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員に誓約書を書かせる等、秘密保持の徹底が図られ、人生の大先輩として、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない取り組みがされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、入居者のペースを尊重し、希望に添った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホームの畑で作られた食材を使用したり、入居者の好みを取り入れて、一緒に準備・食事・片付けをする等、食事が楽しいものになるような支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、10時から16時となっているが、毎日入浴できる体制であり、入居者が希望すれば、夕食後でも入浴できる体制が築かれている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、食材の皮むきや縫い物、ボタンつけ等、出来る力を見極め、自信や喜びを感じてもらえる支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事による外出の他、一人ひとりのその日の希望にそって、畑や買い物、ゲートボール等の外出支援が行われている。また、歩行困難な入居者の場合は、車や車いす等を利用して外出できる工夫がみられる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	センサーだけに頼らず、職員の目配りや気配りを徹底することで、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、昼間を想定した避難訓練や消火訓練が行われているが、夜間を想定した避難訓練は行われていない。	○	消防署だけでなく、地元の消防団や地域住民の協力も得て、夜間を想定した避難訓練も行うことで、いざという時に慌てず確実に誘導できるような取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な入居者には、水分量をチェックし、栄養バランスにも配慮がみられる。また、一人ひとりの状態に応じた食事形態や調理法に工夫がみられる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の南側のガラス戸から季節ごとの作物を見ることが出来る。また、ガラス戸からは自然の光が十分入り、光の強さもブラインドで調節したり、照明器具は温かみのある電球を使用する等、居心地よく過ごせる工夫がみられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に本人作の「書」を飾ったり、使い慣れた家具や好みの衣類を使用する等、居心地よく過ごせるような配慮がされている。		